

令和6年度花き研究シンポジウム 開催要領
「花き分野におけるスマート農業の現状と今後の展開について」

1. 開催趣旨

生産者の高齢化、担い手不足など、我が国の農業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にあり、その上に昨今の猛暑が加わることで生産量や品質への影響も問題視されている。これらの問題は花き分野においても例外ではなく、増加している輸入品から国産シェアを奪還するためにも、花き生産の省力化・効率化、気象条件に左右されない高品質で安定的な生産体系の構築は重要な課題である。

これらの問題の解決手段として、植物の生育・環境に関わる様々なデータ、AI、ICT、センシング技術の活用や機械・ロボットの導入、生育予測技術の開発など、国を挙げてスマート農業の導入・普及が推奨されてきた。農業全体で見ればすでに全国各地で実証事業が進み、有効性も示されつつあるが、花き分野での展開は大きく進んでいないのが実情であり、花き分野に特有の問題点があるものと考えられる。

そこで、本シンポジウムでは、花き分野におけるスマート農業の展開の現状と課題を共有するとともに、野菜の事例も含めたスマート農業の展開事例を紹介し、今後の展望や必要となる技術開発の方向性について討議する。

2. 主催

農研機構 野菜花き研究部門

3. 開催日時

令和6年10月8日（火）13：00～9日（水）12：00
（受付：10月8日（火）12：15～）

4. 開催場所

文部科学省 研究交流センター2階 国際会議場
（茨城県つくば市竹園2-20-5）

5. プログラム

別紙の通り

6. 参加費

無料

7. 参集範囲

国公立試験研究機関担当者、都道府県専門技術員・普及指導員等、大学・民間団体・企業等の研究者、花き産業関係者、その他農研機構野菜花き研究部門所長が必要と認める者

8. 問い合わせ先(事務局)

農研機構 野菜花き研究部門 研究推進部研究推進室
電子メール：tomyjin@affrc.go.jp

9. その他

新型コロナウイルス感染症の状況により、資料配布のみとする場合があります。

(別紙)

令和6年度花き研究シンポジウムプログラム

1日目(10月8日(火))

司会：農研機構 久松 完

13:00～13:05 開会挨拶

農研機構野菜花き研究部門 所長 東出 忠桐

13:05～13:10 はじめに

基調講演：花き分野における海外のスマート農業の事例

13:10～14:00 「オランダの花き生産における技術革新」

イノチオ精興園株式会社 石黒 康平

14:00～14:50 「世界の花き供給基地の生産の現状」

株式会社クラシック 寺谷 一弘

(休憩 10分)

花き分野における国内のスマート化の課題

15:00～15:15 「地域からの情報の報告」

農研機構野菜花き研究部門 仁木 智哉

15:15～15:50 「日本の花き産業におけるスマート化と克服すべき課題」

株式会社日本総合研究所 山本 大介

15:50～16:20 「IOP クラウド「SAWACHI」を利用したデータ駆動型農業の取り組みについて」
高知県農業イノベーション推進課 渋谷 淳平

16:20～17:00 討論(全講師)

2日目(10月9日(水))

司会：農研機構 大久保 直美

花き分野における国内のスマート農業の事例

9:00～9:35 「ユリ施設園芸におけるスマート農業技術～事例から見える成果と課題～」

エフ・エフ・ヒライデ 平出 賢司

9:35～10:10 「画像を活用した「AI 花き自動栽培システム」の開発」

長崎県農林技術開発センター 久村 麻子

(休憩 10分)

10:20～10:55 「「通い農業支援システム」を活用した花き生産のスマート化」

農研機構東北農業研究センター 山下 善道

10:55～11:25 「収穫日予測を活用した花きのスマート計画生産」

農研機構野菜花き研究部門 牛尾 亜由子

11:25～11:55 総合討論

11:55～12:00 閉会挨拶 農研機構野菜花き研究部門 野菜花き育種基盤研究領域長

久松 完